

#3ローマ8章における命の霊の法則によって、神聖な三一の神聖な分与の中で生きる **BEV**1/23-29

I勝利者となるかぎは、ローマ8章における命の霊の法則です。ローマ8章は、切実に尋ね求める者たちのための章です **ローマ7:24** 何と私は苦悩している者でしょう! だれがこの死の体から、私を救い出してくれるのでしょうか? **25** 私たちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します! **8:2** なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、私を解放したからです。 **A**ローマ7章は、「肉の中に」いる経験です。ローマ8章は、「霊の中に」いる経験です(この霊は、神聖な霊が私たちの人の霊の中に住んでおり、この二つの霊が共にミングリングされて一つ霊になっている霊です)。 **ローマ8:9** しかし、確かに神の霊があなたがたの中に住んでいるなら、あなたがたは肉の中にいるのではなく、霊の中にいるのです。もしだれでもキリストの霊を持っていないなら、その人はキリストのものではありません。 **B**ローマ8章における命の霊の法則を享受することは、私たちをローマ12章におけるキリストのからだの実際へと導きます。私たちがからだの中で、またからだのために生きているとき、この法則は私たちの内で活動します。 **II**ローマ8章は、全聖書の焦点また宇宙の中心です。ですから、私たちはローマ8章を経験しているなら、宇宙の中心にいます **A**神は過去の永遠において、神の贖われた人々の中へと入って、神が彼らの命となることができ、彼らが神の団体的な表現となることのできることを決めました。これは神のエコノミーの焦点です。 **B**人は神の創造の中心です。なぜなら神の意図は、人を通して表現されることであるからです。人が神の表現となることができるのは、ただ神が人の中へと入って人の命また内容となり、人を神と一にして、人が神によって生き、さらには神を生かし出すことによってです。このようにして、神は人の内側から表現されます。 **C**ゼカヤ書12:1は言います、「天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」 **1**人の霊は、天と地と共に並列されています。なぜなら私たちの霊は、神が住むことを願う場所であるからです。 **2**天は地のためであり、地は人のためです。そして、人は神によって霊のあるものに創造されました。それは、人が神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一になるためです。 **D**宇宙における中心的な焦点は、手順を経た三一の神がすでに私たちの中へと入って来て、今や私たちの中に住んでいるということです。これは最大の奇跡です。宇宙の中で他の何も、これ以上に重要ではありません。 **E**私たちはみな喜びに満ちているべきです。なぜなら三一の神が私たちに内住し

ており、私たちと一であるからです。彼は私たちの命またパーソンであり、私たちをご自身のホームと一つあります。 **F**三一の神は、肉体と成ること、十字架、復活、昇天の過程を経過して、命の霊の法則となり、「科学的な」法則、自動的な原則として、私たちの霊の中に組み込まれました。これは神のエコノミーにおける最大の発見、さらには回復の一つです。 **ローマ8:10** しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。 **11**…キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。 **G**ローマ8:2,9節~11節における命の霊、神の霊、キリストの霊、キリストご自身、内住する霊はすべて、命を与える複合の霊を指しています。 **H**私たちが主の中へと信じることによって主を受け入れたとき、彼は命の霊の法則として機能して、ご自身を神の神聖な、非受造の命(ギリシャ語、ゾーエ)として、私たちの霊の中へと分与しました。私たちはみな、以下の偉大な啓示を見る必要があります。すなわち、私たちの存在の少なくとも一つの部分、私たちの霊はゾーエです。私たちが思いを霊に付けるとき、私たちの魂を代表する思いはゾーエとなります。さらに、命の霊の法則の活動を通して、ゾーエは私たちの死ぬべき体にも分け与えられることができます。このようにして、私たちは三部分から成る存在全体においてゾーエの人となり、ゾーエの都、すなわち新エルサレムとなります。 **I**究極的に、この命は私たちを備えてキリストの花嫁とならせ、主が戻って来て、私たちを次の時代へともたすようにします。こういうわけで、聖書と宇宙の極めて重要な焦点は、ローマ8章にあります。 **III**ローマ8章は、手順を経た三一の神が命の霊の法則として、神聖な命を信者たちに、彼らの生活のために与えることを啓示しています。これは神聖な三一の神聖な分与の経験です **A**命を与える霊としての手順を経た三一の神が、私たちの霊の中へと組み込まれることは、電気にたとえることができます。私たちの内側の神聖な「電気」の法則としての神の活動は、私たちが協力して、祈ることによってこの法則に「スイッチを入れる」ことを必要とします。 **B**私たちが祈りを通して主とのその触れ合いの中にとどまり、私たちの霊の中で彼との接触の中にとどまる間に、命の霊の法則は自動的に、自然に、苦もなく私たちの中で働きます。 **ローマ8:4** それは律法の義の要求が、肉にしたがってではなく、霊にしたがって歩く私たちにおいて、満たされるためです。 **C**祈りの意義は、私たちが神を吸収することです。私たちは神と接触すればするほど、ますます神を吸収します。そして私たちは神を吸収すればするほど、ますます

神を私たちの光また救いとして享受します。1ダビデは詩篇27:1で言います、「エホバは私の光、私の救いです」。彼は麗しさとしての神を見つめることによって、神と接触し、神を吸収しました。ですから、彼は内側で照らされて救いを受け入れました。詩27:1 エホバは私の光、私の救いです。私はだれを恐れるでしょう? 4 私は一つの事をエホバに願いました。私はそれだけを求めます。私の命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを。3 祈ることは、私たちの本当の状態のままで主に來ることです。私たちは主に來るとき、自分の内なる状態を彼の御前に置いて、自分があるゆる事柄で欠けていることを彼に告げるべきです。たとえ私たちが弱く、混乱し、悲しみ、言うことがなくても、依然として神に來ることができます。私たちの内なる状態がどうであっても、私たちはそれを神にもたらしすべきです。コロサイ4:2 うまずたゆまず祈り、感謝しつつ祈りの中で目を覚ましていなさい。4 私たちは自分の状態について顧慮するのではなく、神を仰ぎ、神を見つめ、神を賛美し、神に感謝をささげ、神を礼拝し、神を吸収することによって、神の臨在の中へと入り、神と接触する必要があります。そして私たちは神の豊富を享受し、神の甘さを味わい、神を光また力として受け入れ、内側で平安で、明るく、強く、力づけられます。私たちは聖徒たちに言葉を供給しているとき、彼に結合され続けるといふ学課を学びます。D 祈りの意義はまた、私たちが神を発表することです。ダビデは詩篇27:4で、エホバの麗しさを見つめることだけでなく、「彼の宮で尋ね求める」ことを願ったと言っています。尋ね求めることは、神に私たちの中で語っていただき、祈りの中で神に対して語った言葉が、実は私たちの中の神の語りかけ、神の発表であるということです。E 私たちは、主と会話し、私たちと彼との交わりを維持することによって、命の靈の法則としての、内住する、組み込まれた、自動的な、内側で活動する神と協力しなければなりません。IV 私たちが靈の内なる感覚に注意するとき、命の靈の法則は私たちの中で活動的になります。私たちがみな学ばなければならないクリスチャン生活の秘訣は、ローマ8:6に見いだされます。この節は、命の靈の法則としてのキリストに対する私たちの靈的な経験に関する、聖書における最も重要な節です—「肉に付けた思いは死ですが、靈に付けた思いは命と平安です」A 思いを肉に付けることは、肉の側に付き、肉と協力し、肉と共に立つことを意味します。思いを靈に付けることは、靈に注意し、靈の側に付き、靈と協力し、靈と共に立つ、すなわち、私たちの靈に注意を払うことです。マラキ2:15 しかし、彼は二人を一つに造られたのではないか? ...あなたがたの靈に注意し、だれ

も自分の若い時の妻を裏切ってはならない。B 私たちは靈の内なる感覚に注意し、命と平安の内なる感覚に従うなら、主を彼の唯一の行動のために、からだのかしらとして尊びます。使徒パウロは彼の福音の奉仕において、キリストのとりこであり、彼の外なる環境によって支配されたのではなく、彼が「私の靈には安息」があるかどうかによって支配されました。彼の靈は彼の存在の最も主要な部分であり、彼は彼のミングリングされた靈によって管理され、支配され、方向づけられ、動かされ、導かれました。V 究極的に、私たちが命の靈の内住する自動的な法則を享受することによって、神聖な三一の神聖な分与の中で生きることは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであり、その享受の目標は、私たちを神格においてではなく、命、性質、表現において神とならせ、彼の永遠のエコノミーの目標である新エルサレムを完成することです

神戸に在る召会交わりと報告事項

1. 以下の特別献金の必要のために祈ってください:
六甲学生福音センター外壁・防水工事費: 450万円、本山学生福音センター建設費: 2450万円、合計2900万円の内、**現在500万円が不足しています。500万円の特別献金が必要です:**
 - 1/25までに、外壁工事費用のために200万円が必要です。
 - 3/15までに、本山学生福音センターのために300万円が必要です。
 - 特別献金は通常献金に追加した献金として捧げてください。
2. 2023年の新しい召会生活:
 - 主日集会参加者を集会所に戻す
 - 家庭集会で一人一人を養う
 - VGで一人一人を成就し、奉仕者を生み出す
3. 主日夜(@六甲)の集会開始時間:
19:15から19:30に変更します。集会時間は19:30-20:30です。
4. 2023年2月国際華語特別集会:
【スケジュール】
2/24(金)M1 19:30~
2/25(土)M2 9:00~M3 11:00~
M4 19:30~
2/26(主)M5 10:00~

CP1 思いを霊に付け、命の霊の法則の活動にあずかることが全聖書の焦点、宇宙の中心である

II ローマ8章は、全聖書の焦点また宇宙の中心です。ですから、私たちはローマ8章を経験しているなら、宇宙の中心にいます **A** 神は過去の永遠において、神の贖われた人々の中へと入って、神が彼らの命となることができ、彼らが神の団体的な表現となることができることを決めました。これは神のエコノミーの焦点です。 **C2** 天は地のためであり、地は人のためです。そして、人は神によって霊のあるものに創造されました。それは、人が神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一になるためです。 **ゼカリヤ12:1** 天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる。 **G4** 三一の神がすべてを含む霊として、私たちの中におられるのは、私たちが彼を、私たちの命またパーソンとすることによって経験し、享受するためです。私たちは三一の神の容器です。 **H** 私たちが主の中へと信じることによって主を受け入れたとき、彼は命の霊の法則として機能して、ご自身を神の神聖な、非受造の命(ゾーエ)として、私たちの霊の中へと分与しました。私たちはみな、以下の偉大な啓示を見る必要があります。すなわち、私たちの存在の少なくとも一つの部分、私たちの霊はゾーエです。私たちが思いを霊に付けるとき、私たちの魂を代表する思いはゾーエとなります。さらに、命の霊の法則の活動を通して、ゾーエは私たちの死ぬべき体にも分け与えられることができます。このようにして、私たちは三部分から成る存在全体においてゾーエの人となり、ゾーエの都、新エルサレムとなります。 **IV** 私たちが霊の内なる感覚に注意するとき、命の霊の法則は私たちの中で活動的になります。私たちがみな学ばなければならないクリスチャン生活の秘訣は、ローマ8:6に見いだされます。この節は、命の霊の法則としてのキリストに対する私たちの霊的な経験に関する、聖書における最も重要な節です—「肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です」

私たちは、どのように私たちの思いを霊に付けるかを学ばなければなりません。言い換えると、私たちは神に信頼し、主に依存することを学ばなければなりません。...これは電気器具を使うことによって例証することができます。私たちはただそれをコンセントに差し込む方法を知っていればよいのです。それらをコンセントに差し込みさえすれば、何の問題もありません。そのことでは、だれも助けられません。私たちは聖書をその物語と教えと共に学ばなければならぬのですが、真の

秘訣はローマ 8:6 にあります。私たちは聖書に精通しているかもしれませんが、ローマ8:6を適用しないなら、私たちが何を知り、また何を行なおうと、ほとんど何も達成しないでしょう。長年、私は聖書を日夜、学んできました。私たちの霊的な経験に関する限り、私はローマ8:6ほど重要な節を他に見いだしませんでした。

適用:青少年・大学生、新人編

あなたは宇宙の中心に居たいでしょうか? それとも、隅に居たいでしょうか? あなたは将来就職する時、可能であるなら会社の中心に居たいでしょう。信者として、あなたは再生された霊を持っています。この人の霊は、天と地と同じように重要なものです。あなたは霊を活用し、思いを霊に付けて、命の霊の法則の自動的な活動にあずかることによって、罪と死の法則から解放され、キリストを命またパーソンとして経験します。その時、あなたは全聖書の焦点また宇宙の中心に居るのです。あなたは思いを霊に付けることを、勉強や仕事の実生活に適用することを願ってください。そうすればあなたは必ず少しずつ経験することができます。

証 私は命の霊の法則が、自動的な働く法則であり、私の労苦を必要としないことを証します。

私は救われた後も宗教的な観念が強く、神のために頑張らないと祝福されない、と考えていました。しかし頑張れば頑張るほど、私は成功すると高ぶりが出てきたり、失敗すると失望したり、他人の祝福をねたんだりして、非常に不安定で弱かったのです。そのような時、アメリカのロサンゼルスでの召会の高校生集会で、若者たちが詩歌を大声で歌って享受しているのを見て、びっくり仰天しました。この時、私の宗教観念がノックアウトされました。私は祈りました、「神のエコノミーは神聖な分与であり、私の側では、それは霊を活用し、単純に神を享受することではないか! 私はもがく必要は全くない!」。そして、以前よりも先ず、霊を活用し、思いを霊に付けて、命の霊の法則の活動にあずかり、主をエンジョイすることに注意するようになりました。徐々に私の召会生活はエンジョイのあるものになりました。

祈り おお主イエスよ、命の霊の法則は自動的に働く法則なので、私の労苦を必要としません。私はただ祈ることによってこの法則に「スイッチを入れる」必要があるだけです。主よ、神のために頑張らないといけないという私の宗教観念を対処してください。思いを霊に付けることを学び、神に信頼して主に依存します。肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。これが聖書の焦点、宇宙の中心です。アーメン!

CP2神を尋ね求める祈りとは、神へ行き、神と交流し、主からの言葉を受けて発表することである

IIIローマ8章は、手順を経た三一の神が命の霊の法則として、神聖な命を信者たちに、彼らの生活のために与えることを啓示しています。これは神聖な三一の神聖な分与の経験です。**D1**『私の顔を尋ね求めよ』とあなたが言われるとき、あなたに向かって、私の心は言います、『エホバよ、あなたの御顔を尋ね求めます』(詩27:8)。**2**...祈ることは神へ行き、神に会い、神に近づき、神と交流し、神を吸収して、神が内側で私たちに語ることができることです。私たちが、私たちに対する神の言葉をもって神に祈るとき、私たちの祈りは神を発表します。

3私たちの祈りの第一の面で、私たちは神との交わりの中へと入り、神は働きのための彼の負担をもって私たちに油塗り、彼の意図を私たちに啓示します。私たちの祈りの第二の面は、主のみこころと働きの負担について、主に嘆願することによって主を尋ね求めることです。そのとき私たちは神と協力して神の同労者になることによって、祈りの目的を遂行します。**4**尋ねる祈りは神を尊びます。ダビデはどのように祈るかを知っていました。なぜなら、彼はしばしばエホバに尋ねたからです。神が預言者ナタンを通してダビデに語った後、ダビデは「エホバの御前に座し」、「あなたが語られたように行なってください」と主に告げました。そして彼は主に、彼の語りかけのゆえに、「あなたのしもべは、この祈りをあなたに祈る心を得たのです」と告げました。**詩27:4** 私は一つの事をエホバに願いました。私はそれだけを求めます。私の命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを。

例えば、召会がある特別な集会のために祈る必要がある、あるいは召会の復興のために祈る必要があると私たちは聞きます。私たちは祈り始めると、主からの言葉が私たちの内側の状態や私たちの状況に関して何かを告げるのを感じます。私たちは祈るのをやめ、召会の復興や特別集会を忘れ、内なる感覚に従うべきです...私たちは、主が叱責して、「あなたは肉に満ちている」と言っていると感じるなら、「主よ、私は肉に満ちています」と言うべきです。

私たちが神に語っていただき、内なる感覚を祈り出す時もあります。しかしながら、私たちの祈りの一部だけが、内なる発表にしたがったものです。なぜなら、私たちは自分の叫びを多く加えるからです。これは、私たちが神に何かを請い求めるよう誘惑されてしまうからです...時には私たちは内なる感覚に触れるのではなく、自分の考えていることにしたがって事を行なったださるよう神に求めます。そのような祈りは無駄です。

証2011年3月11日の東日本大震災の直後、状況について考慮しながら、主の御顔を尋ね求めていた時、1997年1月17日の神戸大震災の時の私の対応が不十分であったことを主は照らしてくださいました。そして、私は主を尋ね求めて祈りました、「主イエスよ、私は神戸大震災をきっかけに、神戸に在る召会は前進し始めた人と紹介していました。しかしその対応は十分ではありませんでした。当時、私はその機会のほとんどを捉えていませんでした。私の鈍感で不信仰な罪を赦してください。私は同じ失敗を繰り返すことはできません。私を憐れんでください。私がこの時を、福音の白い馬が走る機会として捉えることができますように!」。結果、神戸に在る召会は、2011～2013年の3年間で約480人バプテスマすることができました。また、その内の約300人は日本人でした。福音において、日本人は救われないとの観念が砕かれ、福音において大きな突破口を持つことを経験しました。

同時期の2011年9月に、私が転職した時の証をします。4月中旬に転職の話があった時、転職の誘いを最初は断りました。しかし私の内側に平安がなかったので、私は不思議に思いながら、転職について主を尋ね求め始めました。内側では転職について気乗りしないまま、私は面接のため、米国へ行きました。本社近くのホテルに宿泊していた時、自問自答して言いました、「転職についてははっきりしないまま、面接のためにアメリカまで来てしまった。明日は終日、本社の役員たちとの難易度の高い面接を立て続けに受けなければならない。こんな状態で大丈夫だろうか?」。その時点でも、まだ主の導きを感じませんでした。

ところが翌朝、米国の本社に面接に訪れると直ぐに、私の内側が開かれ、明るくなり、主が導いていることがはっきりと分かったので、祈りました、「私は主と共に、主の中で、主のために積極的にこの面接を受けます」。面接の後、この会社を立て直し、成功に導くためには、私の過去に経験して来たことがすべて生かされると感じました。その後、7年間その会社で働き、主のすばらしい御手があったので、すべてのプロジェクトを成功させることができました。

実は2011年3月の大震災時に、私の仕事環境は困難を極めていましたが、私はその事よりも、まず召会の福音のために主を尋ね求め、福音を加速させました。その後、4月中旬から7月初旬で転職のために主を尋ね求めました。主は言われま、**「まずキリストと召会を追い求めなさい。そうすれば生活の必要は加えて与えられる」**。アーメン!